

令和4年度 行政評価調書

■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.152～153)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化)		
施策名	6-2 文化芸術		
所管部	教育部	関係部	生活環境部
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.45)</p> <p>市民の誰もが多様な文化芸術を身近に感じ、親しむことのできるまちを目指します。 このため、市民が文化芸術に触れる機会の拡充や、文化団体等との連携や支援に努めるとともに、継承、発展、創造していくための人材の育成を進め、文化芸術の振興に努めます。 また、文化財の適切な保存に努め、情報発信などにより郷土の歴史や文化に対する市民意識を高める取組を進めるとともに、文化財の活用の推進を図ります。</p>		
市民アンケート 指標	文化芸術の鑑賞や体験活動に参加したことがある市民の割合	基準値	目標値
		35.7%	基準値より増

■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.152～153)

小施策 及び 指標	(1)文化芸術の振興		基準値	目標値
	指標	小樽市文化祭の人口に対する参加者の割合	10%	12%
	(2)文化財などの保存と活用		基準値	目標値
	指標	文化財保存団体数	4団体	4団体

令和4年度 行政評価調書

■ 施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ6 生きがいにあふれ、人と文化を育むまち(生きがい・文化)						
施策名	6-2 文化芸術						
所管部	教育部			関係部	生活環境部		
市民アンケート 指標	文化芸術の鑑賞や体験活動に参加したことのある市民の割合			基準値	令和3年度	令和5年度	目標値
				35.7%	36.8%		基準値より増
市民アンケート 指標の推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)					
各小施策の 指標の推移	指標			基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	小樽市文化祭の人口に対する参加者の割合		10%	2.9%	△	12%
	(2)	文化財保存団体数		4団体	4団体	◎	4団体
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)							
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない			(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
総評及び今後の 具体的方針 ほか特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート指標については、令和3年度の数値は基準値より増加しており、小樽市文化祭や各種学習講座の実施をはじめ、公共施設における文化芸術鑑賞機会の充実、文化団体等への活動支援を継続することにより順調に推移していると考えられるため、引き続き市民の文化芸術への参加及び鑑賞の機会の充実を図る。 ・小施策(1)の指標については、令和元年は概ね維持できていたものの、令和2年度からは新型コロナウイルス感染症の影響を受けて大きく減少し、令和3年度についても文化祭直前まで続いた緊急事態宣言等により開催規模を縮小したため、引き続き大きく減少した。 ・小施策(1)については、新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、可能などころから各団体が活動を再開できるよう実施内容を検討するとともに、参加する文化団体等への支援を行う。 ・小施策(2)については、目標値を達成しており、指標の推移は順調である。 						

■ 有識者会議による点検 (対象 非対象)

点検結果	
------	--

■ 施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない			(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ○各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。 ○小樽市文化祭については、今後も引き続き感染防止対策を行うとともに、多くの市民が文化芸術に触れる機会となるような開催方法を検討すること。 ○新型コロナウイルス感染症の影響により、日頃の活動や発表の場が制限されることによって、文化団体の活動の休止や解散も懸念されることから、市民が文化・芸術に触れる機会の確保のため、団体の存続、活動再開や若い世代の参加促進に必要な支援に努めること。 ○日中勤務している方や、子育て世代の方など、市民の多様なライフスタイルに応じた芸術鑑賞や体験活動の機会提供方法について検討すること。 						

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(1)文化芸術の振興

(第7次総合計画 基本計画 P.152～153)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
	小樽市文化祭の人口に対する参加者の割合		平成30年		10%	12%	
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			9.9%	2.5%	2.9%		
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)				
主な取組	<p>○「小樽市文化団体協議会」などの文化団体等への支援(教育部生涯学習課)</p> <p>★「小樽市文化祭」などの文化芸術活動の場の充実と、団体及び個人の活動状況に関する情報発信(教育部生涯学習課)</p> <p>○アーティスト・バンクによる人材情報の充実と、市民の文化芸術に接する機会の拡大(教育部生涯学習課)</p> <p>○文化芸術活動を行う人材の育成と、指導者の養成や確保(教育部生涯学習課)</p> <p>○文化芸術に親しむ機会の提供と、「レピオフェスティバル」などの開催を通じた市民参加の拡大(教育部生涯学習課)</p> <p>○市民の自主的な文化芸術活動の場として市民会館、市民センター、公会堂などの公共施設の提供や指定管理者が行う自主事業などを通じての文化芸術鑑賞機会の充実(生活環境部生活安全課)</p>						
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 文化祭実行委員会補助金(01393)		② 320 千円		③ 教育部生涯学習課	
		④ 市民による文化芸術活動の発表の場及び鑑賞機会を拡充し、本市における文化芸術の振興を図るため「小樽市文化祭」の開催に対し助成を行う。					
		⑤ 開催種目・来場者 令和元年度 18種目11,267人、令和2年度 6種目2,802人、令和3年度 7種目3,144人					
	2	① 文化団体協議会補助金(01397)		② 160 千円		③ 教育部生涯学習課	
		④ 地域に根ざした創造的な文化芸術活動を推進するため、中心的存在として活動する文化団体協議会の支援、助成を行う。					
		⑤ 加盟団体数 令和元年度 55団体、令和2年度 51団体、令和3年度 48団体					
	3	① アーティスト・バンク登録制度		② 予算なし 千円		③ 教育部生涯学習課	
④ 市内で様々な文化・芸術の分野で活動をしているアーティスト(個人・団体)を登録し、活動内容をホームページにて紹介するとともに、活動支援のため、対象となる市施設の利用料を減免している。							
⑤ 登録者数 令和元年度 142団体・個人、令和2年度 141団体・個人、令和3年度 134団体・個人							
4	① 文化芸術による子どもの育成事業		② 予算なし 千円		③ 教育部生涯学習課		
	④ 伝統文化を継承し発展させていくため、能や箏などの普及・振興に努める団体等と連携を図るとともに、文化庁主催の「文化芸術による子どもの育成事業」に参加する小中学校を支援する。						
	⑤ 実施校 令和元年度 12校、令和2年度 11校、令和3年度 11校						
5	① レピオフェスティバル		② 予算なし 千円		③ 教育部生涯学習課		
	④ 生涯学習プラザ(レピオ)の利用者が、日頃の学習活動や学んだ成果の発表を行い、市民の学習活動を促進する。						
	⑤ 参加者数 令和元年度 318人 令和2年度 815人(作品展示のみ) 令和3年度 1,261人(作品展示のみ)						
6	① 市民会館・公会堂・市民センターの運営(自主事業)		② - 千円		③ 生活環境部生活安全課		
	市民が自主的な文化芸術活動を行う場である市民会館・市民センター・公会堂を指定管理による運営とし、						
	④ 指定管理者の自主事業を通じて、市民の文化鑑賞の機会を拡大させる。管理代行業務費の一部として実施。 ⑤ 自主事業 令和元年度 6回実施、令和2年度 1回実施(新型コロナにより中止した行事あり)、令和3年度は新型コロナによりすべて中止						
指標推移の要因等	・小樽市文化祭の参加者については、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、令和3年度においても展示・ステージなどの種目の縮小、実施期間の短縮により、来場者数が大幅に減少し指標が低下している。コロナ禍においては、感染状況により施設の利用制限や活動内容の制限があり、急激な指標の回復は難しいと考えるが、各団体が活動を継続・再開できるように支援を継続する。						
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> 令和3年度の取組を継続						

指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	<指標推移の要因、令和4年度の取組状況等を踏まえた今後の対応方針>	
	1	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2:予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・小樽市文化祭について、文化芸術活動を行う方々の発表の場を提供するとともに、多くの市民が文化芸術に触れる機会を提供するため、新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、運営団体と協議・連携を図りながら実施を継続する。</p> <p>・コロナ禍で停滞している文化芸術活動をコロナ以前の状態に回復するよう努めるとともに、若い世代の文化芸術活動への参加を促し、人材の育成を図る。</p>

令和4年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(2)文化財などの保存と活用

(第7次総合計画 基本計画 P.153)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	文化財保存団体数		平成30年		4団体	4団体		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
指標推移	◎	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	4団体	4団体	4団体			
指標推移			指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	<p>★「小樽市歴史文化基本構想」の理念を踏まえた歴史文化資源の適切な保存と活用(教育部生涯学習課)【共5-4都市景観】</p> <p>○無形民俗文化財や無形文化財の保存継承のため児童生徒に学びの機会を創出するなど、市民参加の拡大(教育部生涯学習課)</p>							
主な 予算事業等 (令和3年度の 取組状況)	① 名称(事業番号)		② 決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 重要文化財旧日本郵船小樽支店保存修理工事費(02953、03398)		② 390,853 千円		③ 教育部生涯学習課		
		④ 重要文化財 旧日本郵船小樽支店の耐震補強工事・保存修理工事を行う。						
		⑤ <全体工事出来高率>令和3年度 請負工事55.3%、監理工事54.3% ※令和2年度契約締結						
	2	① 松前神楽小樽保存会補助金(01402)		② 80 千円		③ 教育部生涯学習課		
		④ 国指定重要無形民俗文化財「松前神楽」の保持団体である「松前神楽小樽保存会」に対し活動費の補助金を交付し、伝承活動の支援を行う。						
		⑤ <補助金交付額> 令和元年度 80千円 令和2年度 80千円 令和3年度 80千円						
	3	① 忍路鯨場の会補助金(01403)		② 29 千円		③ 教育部生涯学習課		
		④ 市指定無形民俗文化財「忍路鯨漁撈の行事」の保持団体である「忍路鯨場の会」に対し活動費の補助金を交付し、伝承活動の支援を行う。						
		⑤ <補助金交付額> 令和元年度 40千円 令和2年度 40千円 令和3年度 29千円						
	4	① 向井流水法会補助金(01404)		② 40 千円		③ 教育部生涯学習課		
		④ 市指定無形文化財「向井流水法」の保持団体である「向井流水法会」に対し活動費の補助金を交付し、伝承活動の支援を行う。						
		⑤ <補助金交付額> 令和元年度 40千円 令和2年度 40千円 令和3年度 40千円						
5	① 小樽市民俗芸能伝承事業費(03359)		② 52 千円		③ 教育部生涯学習課			
	④ 市内に伝わる無形・無形民俗文化財の普及・伝承活動を目的とし、主として市内の小中学生を対象に、学校教育や長期休業中の練習会を通じ、文化財の公開・指導等を行う。 <参加児童延べ人数> 令和元年度 854人 令和2年度 15人 令和3年度 中止(※)							
	⑤ ※令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため児童生徒を対象にした普及活動は中止。 中止した普及事業の代替として、これまでの小樽市民俗芸能伝承事業の取組や、小樽市民俗芸能伝承事業で扱う4件の文化財について、その由来や保存会の活動を紹介するパネル展を企画・開催。 <会期> 令和4年1月8日～3月31日 <来場者数>7,228人							
指標推移の要因等	・各保存団体の継続的な伝承活動の取組により、現状維持ができています。							
令和4年度の取組状況	<指標推移に関連する主な予算事業等の改善や見直し等> ・新型コロナウイルスの影響の長期化に伴い文化財の保存団体の活動や学校等での普及活動が縮小しているが、感染対策等に工夫をしながら取組を継続したい。							
指標推移への対応方針 (令和5年度以降)	<指標推移の要因、指標推移の要因等々を踏まえた今後の対応方針>							
	1	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2:予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p> <p>・貴重な無形・無形民俗文化財の保存のため、補助金の交付等をおして保存団体の活動を支援する。</p> <p>・児童生徒をはじめとした市民に対する文化財についての情報発信や普及啓発の機会の創出に努める。</p>						